

| | | | | | |
|----------|-----------------|---------|----|-----|------|
| 授業科目名・形態 | 日常生活支援技術演習VI 演習 | 必修・選択の別 | 選択 | 単位数 | 1 |
| 担当者氏名 | 富樫 大 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | 2年後期 |

【授業の主題】

その人らしく生きるための自立（自律）に向けた排泄介護の意義・目的を理解する。生活支援技術論での学習を踏まえて、排泄のメカニズムを理解し、機能低下や障害がある人など多様な場面において適切な介護が実施できることを目指す。

【到達目標】

- 1) 日常生活における排泄の意味や必要性を理解する。
- 2) 対象者の潜在能力を引き出し、生活拡大が図れるように個別性や創意工夫の必要性を理解する。
- 3) 排泄介護における知識・技術・援助の方法を身につける。

【授業計画・内容】

- 第1回 人間にとって排泄とは何か、排泄の意義・目的
- 第2回 排泄のメカニズムとコントロール
- 第3回 排泄に関するアセスメント ①ICFの考え方
- 第4回 排泄に関するアセスメント ②自立している場合と障害がある場合の清潔
- 第5回 機能低下・障害がある場合の援助と留意点 ①感覚機能が低下している場合
- 第6回 機能低下・障害がある場合の援助と留意点 ②運動機能が低下している場合
- 第7回 機能低下・障害がある場合の援助と留意点 ③認知機能が低下している場合
- 第8回 その他（自己導尿、ストーマ、浣腸、坐薬等）の状態に応じた介護
- 第9回 安全・安楽な介助の技法 ①便・尿器のあて方
- 第10回 安全・安楽な介助の技法 ②ポータブルトイレでの排泄
- 第11回 安全・安楽な介助の技法 ③おむつの着用
- 第12回 安全・安楽な介助の技法 ④おむつ交換
- 第13回 実技チェック
- 第14回 排泄介護における多職者との連携
- 第15回 福祉用具の活用と身近な物品の工夫

【授業実施方法】

講義・演習・グループワーク・ビデオ等

【授業準備】

講義内容を予習し、グループワークを円滑に行うことができるよう協力しあう。

【主な関連する科目】

介護の基本・介護過程・生活支援技術論

【教科書等】

「最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ」 〈中央法規〉

【参考文献】

適宜紹介する

【成績評価方法】

筆記試験 60%、実技チェック・レポート等 30%、授業態度等 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設での勤務経験を活かし、排泄のメカニズムを理解したうえでICFに基づいた適切な排泄介護ができるような授業を展開する。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し、対象者（利用者）に適切な排泄介護ができるように、積極的に基本技術を習得しましょう。